

土木学会 コンクリート委員会

第1回 コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関する研究小委員会

(339 委員会) 議事録

日時 : 平成19年9月7日(金) 15:00~17:10
場所 : 弘済会館 4階 楓
出席者 : (敬称略,順不同) : 鎌田委員長, 岩波連絡幹事, 大島幹事, 吉沢幹事, 秋山, 石崎, 稲熊, 岩城, 岩野, 菊地, 北川, 斎藤, 鈴木, 則竹, 藤原, 溝渕, 森濱, 湯山, 渡辺 (鉄道総研), 内田 (大阪大, 記録) の各委員 (以上20名)

配布資料 :

- 1-0 議事次第
- 1-1 委員会の設置主旨
- 1-2 委員名簿
- 1-3 委員の抱負
- 1-4 「ふげん」のコンクリート調査に関する記事など (鎌田委員長)

議 事 :

1. 開会の挨拶

鎌田委員長より, 委員会開催の挨拶があった。その中で, 本委員会を立ち上げた背景や, 今後の委員会の方針についての説明があった。具体的には, 非破壊評価技術の信頼性を向上する理由が, 「ふげん」のコンクリート調査や「人型ロボットの家庭向け販売中止」の新聞記事を例に挙げて説明された。また, 最終成果物としては, 「図解 ○○○」などの本をイメージして, 非破壊評価に馴染みのない人でもその内容を十分理解してもらえるようなものになりたいとの話があった。

2. 委員会設置主旨

岩波連絡幹事より, 委員会設置主旨についての説明があった。委員会の主な目的としては,

- ①非破壊評価技術の理論化・標準化
- ②非破壊評価技術の教育プログラムの作成
- ③非破壊評価技術の適用上の効果についての総合的な検討 (①+②)
- ④報告書・シンポジウム (①+②+③)

であり, これらを通して非破壊評価技術の信頼性を向上したいとの説明があった。特に, ①および②を委員会で議論する理由としては, 非破壊評価技術にあまり馴染みのない人は,

- ・コンクリートの非破壊評価技術自体に信頼性が欠ける部分があると考えている (上記①に対応)
- ・コンクリートの非破壊評価技術に知識がない (上記②に対応)

したがって, 上記2点を検討するために, 例えば②の場合は, 当該技術に関して業務中によく質問される内容を列挙し, それらに対する回答案を作成しておくことが重要であり, 信頼性を向上する近道であることが説明された。

なお, 今後は, 2~3ヶ月に1回の頻度で委員会を開催したいとの説明もあった。

最後に, その他の3種委員会とは一味異なる委員会にしたいとの熱意も語られた。

3. 委員の自己紹介と参加の抱負

各委員より, 自己紹介および委員会参加の動機について説明された。さらに, 委員応募時に執筆した「非破壊評価技術の信頼性向上のための方策の提案」および「自分が貢献できること」の内容につ

いて、全ての委員が口頭で説明を行った。

4. 今後の活動方針に関するフリーディスカッション

フリーディスカッションで決定した項目を以下に列挙する。

(1) ワーキンググループ (WG) について

WG は2つに区分することが決定した。各 WG 名は以下のとおりである。

- ・WG1：非破壊評価技術の理論化・標準化研究 WG
- ・WG2：非破壊評価技術の教育プログラム作成 WG

WG1 は弾性波法に限定し、WG2 については非破壊評価全般（必ずしも網羅する必要はない）について取り扱うことが決定した。また、各委員は必ず1つ以上のWGに所属することも併せて決められた。なお、WG間の人数調整は行わないものとし、委員会活動中において、新たにWGを設置することも可能であることが確認された。また、追って、連絡幹事より各委員に対して、所属WGの希望調査があることが伝えられた。

(2) 追加の個人の業務情報について

委員個人がこれまでに経験してきた非破壊評価技術について調査したいとの提案があり、今後その調査を所属WGの希望調査とあわせて行うこととなった。

(3) 成果物の出版化

最終成果物を書籍として出版することも可能である。この場合、委員個人の通常業務に活用できるため、積極的な委員会活動を期待する旨の話があった。

5. その他

(1) NDIS について

森濱委員より、NDIS（日本非破壊検査協会規格）制定に関する動向の説明があった。現在、非破壊検査協会では、規格制定のための委員会が設置されており、超音波法、衝撃弾性波法、打音法の3つのWGに分かれて議論しており、来年6月に規格として制定されるとの説明があった。

(2) 委員会 HP について

委員会HPの作成・更新は内田（大阪大）が行うとの説明があった。暫定版が完成したら、意見照会をかける予定であるので、URLアドレスを連絡する。これにともない、HPに掲載する個人情報（顔写真、生年月日など）の提供が依頼された。

(3) 幹事について

委員会活動やWG活動を中心的に実施し、そのとりまとめ役となる幹事を、委員会立ち上げ時にお願した塩谷委員（飛島建設）および渡辺委員（徳島大）に加えて、大島委員（京都大）および吉沢委員（首都高速道路技術センター）が務めることが決まった。他にも幹事を務めたい委員がいれば、連絡幹事宛に連絡する。

次回の予定

平成19年11月14日（水）15:00～17:00

場所：土木学会 E・F 会議室

次回までの宿題

コンクリートの非破壊評価技術について精通していない発注者、コンサルタント、学生などからよく質問される事柄を列挙する。詳細については、追って連絡幹事がメール送信する。

以 上